

第3回 審議会のふりかえり

01 「学校再編にあたっての基本的な考え方」について

学校の再編にあたっての基本的な考え方

前提 1 これからの中等教育を実現するための検討
①「令和の日本型学校教育」
②「門真のめざす教育」
③「個別最適な学び」
④「優先順位 2」 児童生徒数を考慮した検討
⑤「優先順位 3」 老朽化した校舎への対応
⑥「全体像 4」 今後のまちづくりを考慮した検討
⑦「全体像 5」 学校の変遷を踏まえた検討

なぜ、この考え方なの？ 

資料 2

②児童生徒数, ③老朽化した校舎について

すべての学校校舎を新しくできれば、①の実現にも大きくながるが、財政的にも体制的にも非常に困難。そのため、どこから先に手をつけるのか優先順位をつけた上で、学校の再編を進めていきたい。

②については、①の実現（多様な人とのつながりの創出）に向け、既に単学級になっている、また、将来的に単学級となることが見込まれる学校を優先したい。

③については、①の実現（多様な人とのつながりや多様な学習環境の創出）に向け、過去の大規模改修等の状況も踏まえながら、令和5年時点で築50年以上の学校を優先したい。

④今後のまちづくり, ⑤学校の変遷

場当たり的な再編統合にならないよう、対象とする校区や学校だけでなく、門真市全体の学校の将来像をイメージしながら検討を進めていっていただきたい。
④⑤はその際の参考として検討いただきたい。

【委員からの意見】

⑥として、この審議会では、④⑤の検討も踏まえた上で、門真市全体の学校の将来像を検討するというような内容を付け加えてはどうか。



①めざす教育について

「令和の日本型学校教育」や第四次答申で示された「門真のめざす教育」は門真市のすべての学校で実現していくものであるので、再編統合を検討する上でも、前提として考えていただきたい。

事務局より⑥を追加した資料をのちほどお示します。

第3回 審議会のふりかえり

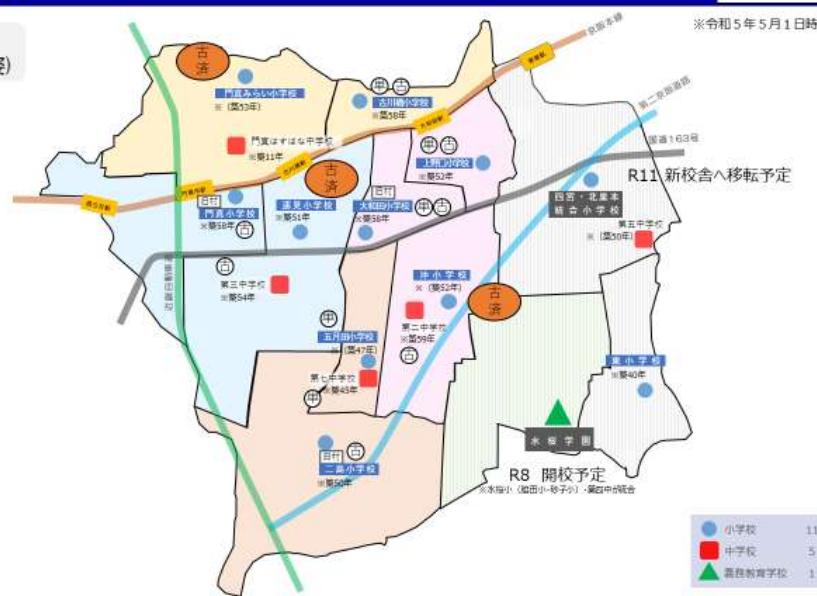
02

②児童生徒数, ③築年数, ④まちづくり, ⑤変遷について



学校位置図 審議会用

門真の小学校区 (第4次実施方針完了後の姿)



【委員からの意見】

単学級では、クラスが固定化され、6年間同じメンバーで学んでいくことになる。単学級ならではのよさもたくさんあるが、「多様な人とのつながり」を大切にした教育を大切にするなら、1学年3クラス程度はほしいと思う。

なぜ、その学校を統合するのか、大規模改修するのかなどについて、自分たちが地域の方などに聞かれたときに説明できるように、しっかりと理由を示せるようにしたい。



現在、自治会の加入者が年々減ってきており、自治会自体を統合しようとしても神社の兼ね合いなどでよい返答をもらえないこともあった。

現在、学校単位で自治会などがあるが、学校と地域を良い意味で切り離して考えてはどうか。

京都の例とすると、「校区」と「学区」を分けました。学区〇〇周年といった形でこれまでの地域の行事をしたりなどしている。

極端に言うと、将来的に門真市に1校でよいのではないか。それであれば、予算の面や、めざす教育の実現にもより近づけるのでは。



ただ、学校を1校などにした場合、避難所といった面では、跡地を活用するなど、いろいろと検討が必要かもしれない。



子どもの数や校舎の古さで見ると、市の中央付近の学校名が多いように思います。このあたりの再編が必要かもしれませんね。



子どもたちが安全に通学できるような校区の再編であればよい。その上で新興住宅地がどこにあるのかなどの情報を調べておくとよいかもしない。



次回は、本日の議論をもとに、それぞれ皆さんができるだけアイデアを出していただけたらと思います。



本日も「基本的な考え方」をもとに、議論を行います。